

通郵局

船監第一〇四〇號 通牒 昭和五年十一月四日

和昭五年十二月 五日 信省 (印)

外務省 通商局長殿 遞信省 管船局長



揚子江航行船不法被射撃其他ニ  
關スル件

右ニ關シ日清汽船會社ヨリ別紙寫ノ通り届出有之候ニ付御參考迄及  
送付候



昭和五年十月三十日

日清汽船株式會社

社長 男爵 深尾 隆太郎

逓信省管船局長

侯爵 廣幡 忠隆 殿

揚子江航行船不法被射撃其他ニ係ル件

其後弊社揚子江航行船別紙ノ通り支那匪軍ノタメ不法射砲撃、不法乗船等ノ厄ニ遭遇候間此段御届申上候

大亨丸

九月廿二日上航監利附近ニテ射撃セララル  
九月廿八日下航下車灣附近ニテ射撃セラレ支那人船員一名負傷ス

大吉丸

九月廿四日上航監利通過ノ際卅分ニ亘リ猛射ヲ受ケ支那人船員一名負傷シ破損個所無數

當陽丸

九月廿六日下航觀音州附近ニ於テ三發ノ砲撃ヲ受ケ船体激動ヲ感シタルモ幸ヒ命中セス

信陽丸

九月廿七日上航觀音州附近ニテ三發砲撃セラレ更ニ上車灣及下車灣附近ニテ數回射撃ヲ受ク  
九月廿八日郝穴附近ニテ射撃セラ

當陽丸

十月一日上航觀音州ニテ射撃セララル  
十月二日馬家塞下流ニテ射撃セララル

信陽丸

十月六日上航新河口附近ニテ三發砲撃セララル  
十月十二日下航新河口上流ニテ砲二發及小銃ノ一齊射撃ヲ受ケ日本人船各一名負傷シ破損個所多ク更ニ下車灣ニテ射撃セラレタルモ折宜ク接航ノ軍艦堅田ヨリ反撃沈滅セシム

當陽丸

十月八日下航蕪州附近ニテ四發砲撃セララル

武陵丸	十月九日下航上車灣附近ニテ五發砲撃セラル
洛陽丸	十月十一日下航黃壑口附近ニテ七發砲撃セラル
大亨丸	十月十二日上航上車灣ニテ三回砲撃セラレ護送軍艦小鷹應射ス 同日更ニ監利附近ニテ射撃セラレ支那人船員一名腹部ニ貫通 傷ヲ負ヒ三等船客一名即死ス
沅江丸	十月十三日上航城陵磯及岳州ヨリ武裝セサル正規軍裝兵約五 十名及私服ノ兵ト稱スルモノ約百名乗船シ運賃支拂ニ應セス 退去ヲ退レハ威嚇ヲナスヲ以テ不得止長沙迄乗船セシム

以上

秘

昭和5 一六一二四 暗 漢口 本省 十一月六日後着 亞

幣原外務大臣

坂根總領事

第五一四號

往電第四九五號ニ關シ

當館諜報者カ行營側ニ付探聞スル所ニ依レハ主任何成濬ハ戰線ヨリ  
歸還部隊ノ輸送モ既ニ大部分終了セルヲ以テ(本月十日完了ノ豫定)  
愈三省共同剿匪ヲ開始スルコトナリ右電報所傳湖北省内各地受持  
チ部隊ニ對シ本五日ヨリ夫々討伐開始方發令スルト共ニ第四路何健  
軍及第九路魯滌平ノ兩軍ニ對シテモ同様ノ電令ヲ發シ差當リ湖南江  
西省境ヲ中心トシテ贛居シ居ル共產軍ヲ目標トシ張輝賢、許克祥軍

電信寫

ヲ第一縱隊羅霖、李覺ヲ第二縱隊譚道源、鄧英ヲ第三縱隊トナシテ  
攻撃ニ着手セシメ彭啓彪ノ一旅ヲシテ南海鐵道ヲ守備セシメ中央綏  
私團ヲシテ九江ヲ防備セシメ毛炳文、熊式輝ノ兩師ヲ總豫備隊トス  
ルコトトナリタルカ右ノ外第十九路軍ニ屬スル蔣光鼐及蔡廷楨ノ兩  
師ニ對シテモ別ニ蔣介石ヨリ右攻撃ニ參加スル爲十日以内ニ全部出  
動方命令セル趣ナリ尙武漢行營ハ十月末ヲ以テ閉鎖ノ筈ナリシカ三  
省共同剿匪ヲ主宰シ居ル關係上何成濬ヨリ上申ノ結果三ヶ月閉鎖ヲ  
延期スルコトトナレリ  
上海、北平、南京、長沙、九江ニ轉電セリ

亞細亞局長

機密第九五八號

昭和五年十一月七日

在漢口

總領事

坂根 準

三



外務大臣男爵 幣原 喜重 郎 殿

本邦艦船ニ對スル不法射撃ニ關シ報告ノ件

十月二十一日附機密第九〇二號報告ノ本件ニ關シ其ノ後ノ分ヲ別紙  
(二通)ノ通り作表ノ上報告申進ス

本信寫送付先、在上海臨時代理公使、在北平公使館一等書記官、  
在上海總領事、在南京領事、

在漢口日本總領事館

B I

懸

(11)

昭和五年十二月拾八日

別紙添付

本邦艦船不法射撃表（其ノ十一）

被害年月日	被害地點	被害艦加害船名	被害部隊	被害程度	備考
十月十七日 午後一時四十分	沙市下流上日清汽船車灣	信陽丸	共産匪	數發ノ砲撃ヲ受ケタリ命中彈ナシ護衛艦堅田及以テ武漢行營警戒隊之ニ反撃ニ從來ノ分トヲ加ヘタリ	十一月六日附
十月二十三 日午前七時 四十分	觀音洲一番「ビ」コン附近	日清汽船 大亨丸	共産匪	十數發ノ砲射撃ヲ受ケタリ右舷船室ニ一發命中セリ護衛艦小鷹ハ直ニ反撃ヲ加ヘタリ	同
十月二十三 日午前七時 四十分	沙市附近第一番「ビ」コンノ地點	日清汽船 武陵丸	共産匪	數發ノ銃砲撃ヲ受ケタリ命中彈ナシ警戒隊直ニ反撃ヲ加ヘタリ	同
十月二十七	岳州附近第一日清汽船	共産匪	數發ノ銃砲撃ヲ受ケタリ命中彈	同	右

在漢口日本帝國總領事館

111

被害年月日	被害地點	被害艦加害船名	被害部隊	被害程度	備考
十月二十八 日午後五時 十分	馬家處	日清汽船 信陽丸	共産匪	數發ノ射撃ヲ受ケタリ命中彈ナシ護衛艦堅田ハ直ニ反撃ヲ加ヘタリ	同
十月二十九 日午後四時 三十分	沙市下流第九A及第八B立標ノ區間（下車灣下方約一哩半ノ地點）	日清汽船 武陵丸	共産匪	數發ノ砲撃ヲ受ケタリ命中彈ナシ警戒隊直ニ反撃ヲ加ヘタリ	同

在漢口日本帝國總領事館

111

(22)

日午後	十月二十八日午後五時十分	十月二十九日午後四時三十分	沙市下流第九A及第八B立標ノ區間(下車灣ノ地方約二哩半ノ地點)	馬家堤	日清汽船 信陽丸	共産匪	ナシ 護衛艦堅田ハ直ニ反撃ヲ加ヘタリ	同	右
日午後	十月二十八日午後五時十分	十月二十九日午後四時三十分	沙市下流第九A及第八B立標ノ區間(下車灣ノ地方約二哩半ノ地點)	馬家堤	日清汽船 信陽丸	共産匪	ナシ 護衛艦堅田ハ直ニ反撃ヲ加ヘタリ	同	右

在漢口日本帝國總領事館  
B11

(21)

被害年月日	被害地點	被害艦加害部隊	被害程度備考
十月十七日午後一時四十分	沙市下流上車灣	日清汽船 信陽丸 共産匪	數發ノ砲撃ヲ受テ十一月六日附シテ護衛艦堅田及以テ武漢行營ニ從來ノ分營ヲ加ヘタリ
十月二十三日前七時四十分	觀音洲一番「ビーコン」附近	日清汽船 大亨丸 共産匪	十數發ノ砲撃ヲ受ケタリ右舷ヲ受ケテ一發命中セリ護衛艦小鷹ハ直ニ反撃ヲ加ヘタリ
十月二十三日前七時四十分	沙市附近第一番「ビーコン」ノ地點	日清汽船 武陵丸 共産匪	數發ノ銃砲撃ヲ受ケタリ命中ニナシ警戒隊直ニ反撃ヲ加ヘタリ
十月二十七日	岳州附近第一番「ビーコン」ノ地點	日清汽船 共産匪	數發ノ銃砲撃ヲ受ケタリ命中ニナシ

在漢口日本帝國總領事館  
B11

電信課長

電信課

(原議用紙甲) 團納

大臣

次官

亞細亞局長

主管 亞細亞局長 (起草) 昭和五年十月十日

件 卯船不法射撃事件

名込綴

在上海

發 幣原大臣

宛 長 重光代理公使

本暗 公 第四一三號

長江筋邦船不法射撃手問題ニ関シ

南京政府が時局一段落後先ツ以テ共匪、

討伐ニ力ヲ致サントシツアル模様ハ上海

總領事發本大臣宛電報第五四五號 蔣

電信課

外務省

電送第10079號  
昭和五年十月十日 午後二時一分發

(原議用紙乙) +

介石ノ通電其ノ後ノ軍ノ移動狀況、漢口  
 總領事發本大臣宛電報第五一四號等ニ依リ  
 看取シ得ヘキモノ一方共匪跳梁ノ實況ヲ見  
 ルニ漢口附近系次ノ情報並ニ桑島參事官ノ報  
 告ニ依ルニ相當深刻ニシテ長江以助ニ於テ特  
 ニ甚シキモノアリカ如シ之シカ為メ或ハ此ノ際列  
 國共同警備ヲ主張スル向モアルニ處ニ本件ニ

電信課

外務省

3.2



(原議用紙乙)ナ

對るに當方ノ意向ハ往電公第四〇七號ノ通り  
 共匪討伐ノ実績一日モ速ク之ヲ果ランコトハ獨リ  
 我方ノミナラス支那側ノ為メニモ希望ニ堪ヘサ  
 レル次第ナルヲ以テ前記情ハ好カクヲ鼓舞スル  
 趣旨ニ於テ貴官ハ適當ノ機會ニ將ニ對レ本  
 大任ノ傳達トシテ愈々内訌モ消ス茲ニ建設的  
 施設ニ向ツテ着々豫定ノ計畫ヲ進メラレツツアル

本氏附

全氏附

電信案

外務省

3.2

(原議用紙乙)ナ

ハ欣幸ニ堪ヘス就中共匪ノ討伐ニ力ヲ注カルル  
 コトハ當ニ支那内部ノ建設ノ為メニ重要ナルハ  
 キノミナラス同時ニ列國ニ於テモ痛切ニ利害關  
 係ヲ感スル所ナルヲ以テ此ノ際益々共匪ノ討  
 伐ニ力ヲ盡サレンコト希望ニ堪ヘザル旨程ヨク申入レラセ  
 南京、蕪湖、漢口、九江へ轉電シ漢口、長沙、沙市、宜昌  
 重慶へ轉電セシメラセシ

電信案

外務省

3.2

10080  
5 11 10 -11 5

電信課長

電信案

(原議用紙甲)

主管 亞細亞局 (起草昭和五年十一月十日)

件 郵船不送射擊事件

名込綴

宛 在北平

矢野参事官

發 幣原大臣

本暗 第一七五號

本大臣宛 重光代理公使宛 電報 第四三號 左ノ通

(重光代理公使宛 電報 第四三號 全文)

電信案

外務省

記

秘

九月十八日  
王外務部長  
御寄附

重光外理公使發電報 九月二十日着
公身死一八号 (長崎英西百件) 「後段ニ左ノ句アリ」
尚本費ヲ長江一帯ニ行ハルル不法射撃ノ事ニ言及シ此ノ
際外事ノ内ニ面倒ヲ生ズルコトナキ 根元ヲ手取セラルルコト
ヘト述ハスレニ對シ 王部長ハ 我島ニ向テ一級艦ヲ發シヘシ
此ノ方面ニ先手取ヲ為スコトナリ 是レト説明セリ

外務省

亞局

第二課

昭和五年十一月廿八日接受

機密第九九三號

昭和五年十一月十四日

在漢口

總領事 坂根 準 三



外務大臣男爵 幣 原 喜 重 郎 殿

艦船不法射撃ニ付支那側ニ抗議ニ關シ報告ノ件

據テ報告ノ通り當地ヲ中心トシ上下ヲ航行スル本邦艦船ニ對スル不法射撃ニ關シ官報ニ於テハ特ニ被害大ナル場合ハ其都度當地支那官憲ニ抗議セルモ然ラサル限り一々抗議ノ煩ニ堪ヘス時機ヲ見テ一掃抗議ノ心組ナリシ屬近來此種 不法射撃ハ支那側累次ノ聲明ニ對テ

在漢口日本總領事館 B1

ハラス毫モ改善セラルル漢口ナリノミテラス益々其履ヲ加ヘ居ルニ於テハ加ヘテ隊テ軍光代理公使宛實電公第四〇七號訓電ノ款第モ有之タルニ付本月六日附第二二六號公文ヲ以テ武漢行營主任代理何成濬ニ對シ本年七月央以降發生ノ實例六十二件ヲ作表添付ノ上ハ我方應別ノ事實ニ言及セス。此狀況比儘推移スルニ於テハ如何ナル不祥事ヲ惹起スルニ至ルヤモ計リ難ク兩國親善關係ノ爲メ誠ニ苦心ニ堪ヘサル次第ヲ具シ至急<sup>的</sup> 惟且ツ有效ナル取締ヲ加ヘラレ度キ旨申入レ置キタル履行營參謀處ヨリ本月十三日附ヲ以テ目下軍勢終熄シ長江流域及各地ノ土匪及共產軍ニ對シテハ共同討伐中ナル旨別<sup>通</sup> 通リ回答越シタルニ付安細石ニテ御了知相成度此致報告申進ス

本信寫送付奉先、

在漢口日本帝國總領事館 B11

代理公使、在北平公使館、在上海總領事、  
在南京、在長沙、在沙市、在宜昌、在重慶、在九江  
在蕪湖各領事、

在漢口日本帝國總領事館

B11

逕復者頃奉主任父下

貴領事第二二六號來函並附 貴國艦船在長江一帶被共匪劫擄次致表

一件請嚴行取締並希望以後不再發生此等不法劫擄致傷兩國親善等由

查本國軍事將次結束所有長江流域以及各地匪共正在通籌圍剿中准函

前由相應函復

查照爲荷此致

日本駐漢領事叔板

陸海空軍  
總司令行營 參謀處 啓

十一月十三日

在漢口日本帝國總領事館

B11

海文

陸海軍軍務司令行官務課陳虎ヨリ

在漢口坂根海軍部事務書面

十九年(昭和五年)十月十三日附

拝復陳者 貴部艦艇力長北一帯に於て共匪ノ為ニ射撃セ

ズルノ事蓋アルニ付嚴重に仰テ行ヒ今條迄尋ノ不始射撃ヲ

再ヒ待望セラス而勿親長閣下ヲ傷ケ其根柢措置相成テ

各貴部ヲ引カニシテ不号貴位ヲ以テ射撃回數表相保

守中故有之云云敬ヲ以テ貴部ニ付長江一帯に於テ

貴部同ノ軍事ニ謝シ終始之ニ付長江一帯に於テ

外務省

巡査部長 貴部ニ對シ目下折角一各地に於テノ新討方

協同半仰中ニ有之條 右打テ承知相成テ 仰致レ

貴中巡査 敬具

外務省

亞細亞局長

第二課

昭和五年十一月廿日 發

機密第一〇〇〇號

昭和五年十一月十七日

別紙添付

在漢口

總領事 坂根 準 三



外務大臣男爵 幣原 喜重郎 殿

本邦艦船ニ對スル不法射撃ニ關シ新聞切抜  
送付ノ件

十月二十一日附機密第九〇一號報告ノ本件ニ關シ其ノ後當地邦字新聞ニ掲載セラレタル最近ノ不法射撃ニシテ特ニ注意ヲ要スル程度ノ

懸案

在漢口日本總領事館 BI

モノ別添新聞切抜ノ通りニ付委細右ニテ御了知相成度此段報告ス  
本信寫送付先、

代理公使、北平、上海、南京、

在漢口日本帝國總領事館

B11

土月四  
漢口附近

黄瀬口附近の土匪

又砲撃を開始す

一弾は南陽丸船長室に飛込む  
大利も撃たれる

下流黄瀬口附近には従来匪徒各  
種共砲撃を受け危険区域とされ  
てゐたが最近では土匪の活動衰へ  
砲撃中止の状態に在つた所去る八  
日午後十時三十分頃南陽丸はエラ  
ーロック附近航行中ハボンクロー  
クビーコンより砲魚台砲台に至る  
間に於て右岸より約五門砲撃され  
其中一弾は同船右舷船橋に命中  
し防備板用ワッドスタンプシヨ  
ン（艦約三吋）を貫通して船長室ケ  
ーシング内に突入したが幸に人命  
には異状なきを得た、該砲は直  
撃約半時長二時半の砲撃にて其  
貫通力より見るべきは砲撃として  
は威力甚だ微弱なるも近距離にて  
命中するときは人命には相當危険  
性を有するものであると、尙射中  
したものは五艘中の第一弾でオヘ  
ルスタヒル附近より射されしも  
のにて其時の距離は目測百五十米  
位であつた。大砲の位置はオヘ

鳥羽も砲撃さる

共匪一名を斃す

鳥羽は南陽丸を襲撃して上江中  
十日午後零時二十四分反響に共匪  
あつて射撃を取つたので機銃  
を以つて威嚇射撃を行つたが、同  
日午後四時二十分上流上流二瀬  
左岸距離約二千米より大砲二尊の  
射撃を受け更に十一日午前七時五  
十分東田山上に在る砲台の砲撃に  
關へある砲より三尊の砲撃を受け  
直ちに反響を加へ共匪一名を斃し  
た。

土月四  
漢口附近

比良砲撃さる

大谷十三日、砲撃比良は上江中  
十二日午後一時二十六分家州（  
前瀬口上流六瀬）右岸共匪より  
四尊の砲撃を受けたので直ちに反  
撃射撃せしめた、尙射撃間隔其他  
よりして同所には二門以上の砲あ  
るもの、如く五六名の共匪見せ  
しめ其勢力は不明である。



十月十五日  
廣田内閣

### 小鷹の反撃に 共匪周章狼狽

沙市十三日 小鷹は激しく反撃し、共匪死者數  
を擧げ、上江中本日午前十時上車  
下流に於て左岸より不法砲撃、  
火災起れる爲め周章狼狽に沈黙  
して午前十時十五分上車海に於  
て不法砲撃を受けたので直ちに反  
撃を加へ、十二番クローシング附  
近より重砲を返したが午前十一時  
上車海左岸より再び砲撃を受  
如し

十月十六日  
廣田内閣

### 大亨丸往復航共 盛んに撃たる

大亨丸は十一月二日漢口同日  
歸海したが往復航共例に依り江岸  
の共匪より不法砲撃を受けた、  
左は今次航行に於ける遭難状況で  
ある  
二日漢口用帆上航の途程三日午前  
十一時十分張馬塞下方通過の際右  
岸少く内方の丘より大砲三發  
砲撃せられた直ちに砲撃隊に砲撃  
沈黙せしめたより特に砲撃隊  
に備行中同日午後五時五分第十  
番立附近にて左岸より再び小銃  
砲撃を受けたが砲撃隊の反撃に連  
つて直ちに沈黙同日午後四時二十  
五分砲撃の少く上方を通過する  
や又も左岸より三發の小銃砲撃  
を受けたるも之亦砲撃隊の砲撃を  
受けて沈黙した、總て四日沙市  
下流六洲の地點(興善寺上方)  
に於けるや其砲撃五百を算す  
る共匪左岸砲撃十町余にわたりて  
十時流の赤旗を押し立て猛烈なる  
小銃砲撃を開始せんとしたので我  
砲撃隊は時を移さず猛烈なる反撃  
を加へ、終に共匪は悉く上より姿  
を消し、僅かに十數時の砲撃を受け  
たのみ中傷は二三ありあつたが幸  
に重傷なく沈黙するを得た  
八日午前七時二十五分宜昌  
歸海の途程九日午前十五分

西郷正長

第三編

昭和五年五月四日

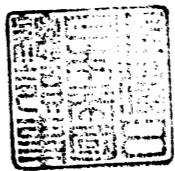
機密第一〇〇一號

昭和五年十一月十七日

別紙添付

在漢口

總領事 坂根 準三



外務大臣男爵 幣原 喜重郎 殿

本邦艦船ニ對スル不法射撃ニ關シ報告ノ件

十一月七日附機密第九五八號報告ノ本件ニ關シ其ノ後ノ分ヲ別紙(一通)ノ通り作表ノ上報告申進ス

本信寫送付先、

在漢口日本總領事館 B I

(12)

代理公使、北平、上海、南京、

在漢口日本帝國總領事館 B I I



三十五分	十一月九日 午後零時十七分	張家灣	同	右同	一發ノ射撃ヲ受ケタ 警戒隊之ヲ反撃セリ	同	右
十一月九日 午後十一時三十分	黃鰲口附近 ク・エラロツコ	日清汽船 大和丸	同	右	三發ノ砲撃ヲ受ケタ 警戒隊之ヲ反撃セリ	同	右
十一月十日 午後四時二十分	上車灣上流 二涅ノ地點	帝國軍艦 鳥羽	同	右	二發ノ砲撃ヲ受ケタ 警戒隊之ヲ反撃セリ	同	右
十一月十一日 午前七時五十分	沙市下流 東岳山	同	右同	右	三發ノ砲撃ヲ受ケタ 警戒隊之ヲ反撃セリ	同	右
十一月十二日 午後一時二十六分	黃鰲口上流 六哩ノ地點	帝國軍艦 比良	同	右	四發ノ砲撃ヲ受ケタ 警戒隊之ヲ反撃セリ	同	右

在漢口日本帝國總領事館

B11

十一月十三日 午前十時十五分	沙市下流 上車灣	帝國軍艦 比良	同	右	數發ノ砲射撃ヲ受ケ 警戒隊之ヲ反撃セリ	同	右
十一月十六日 午前九時四十五分	沙市下流 東岳山砲台	帝國軍艦 熱海	同	右	五發ノ砲撃ヲ受ケタ 警戒隊之ヲ反撃セリ	同	右
十一月十六日 午後五時四十分	沙市下流 上車灣下流	同	右同	右	計四發ノ砲射撃ヲ受 警戒隊之ヲ反撃セリ	同	右
十一月十六日 午後六時五十分	沙市下流 張馬套	同	右同	右	數十發ノ射撃ヲ受ケ 警戒隊之ヲ反撃セリ	同	右
十一月十六日 午前六時	沙市下流 岳山砲台	日清汽船 當陽丸	同	右	數發ノ砲射撃ヲ受ケ 警戒隊之ヲ反撃セリ	同	右
同	馬套間	日清汽船 雲陽丸	同	右	警戒隊之ヲ反撃セリ	同	右

在漢口日本帝國總領事館

B11

(24)

十一月九日 午前十一時	十一月九日 午前十一時五分	十一月八日 午後十時三十分	十一月四日 (時間未詳)	十五分
石首	宜昌下流第二十八番B方	至釣魚台燈	黃陂口附近	沙市下流約六哩ノ地點(觀音寺上方)
同	日清汽船大享丸	日清汽船南陽丸	日清汽船大享丸	日清汽船大享丸
右	同	共産匪	約五百名ノ共産匪	船体及人命共損害ナシ
右	前後二回數發ノ射撃ヲ受ケタリ	シ	約五發ノ砲撃ヲ受ケタリ	十數發ノ射撃ヲ受ケタリ
右	同	同	同	同

在漢口日本帝國總領事館 B11

(23)

十一月三日 午後四時二分	十一月三日 午後〇時五分	十一月三日 午前十一時十分	同	十月二十九日 午後四時三十分頃	被害年月日
監利上方	B立標附近	沙市下流張馬套下方	同	立標附近	被害地點
同	同	日清汽船大享丸	日清汽船武陵丸	日清汽船大享丸	被害艦名
右	同	同	同	共産匪	加害部隊
右	同	同	同	同	被害程度
同	同	同	同	同	備考

在漢口日本帝國總領事館 B11

(12)

(26)

同	十一月十六日午前九時	十一月十六日午後六時	十一月十六日午後十二時	十一月十六日午前九時	十一月十三日午前十五時
右	沙市下流東岳山砲台張馬套間	沙市下流張馬套	沙市下流上車灣下流	沙市下流東岳山砲台	沙市下流上車灣及上車灣
右	日清汽船 雲陽丸	同	同	帝國軍艦 熱海艦	帝國軍艦 比良艦
同	同	右	右	同	共產匪
右	數發ノ砲射撃ヲ受ケタリ命ヲ中彈ナシ反撃セリ	數十發ノ砲射撃ヲ受ケタリ命ヲ中彈ナシ反撃ヲ加ヘタリ	計四發ノ砲射撃ヲ受ケタリ命ヲ中彈ナシ反撃ヲ加ヘタリ	五發ノ砲射撃ヲ受ケタリ命ヲ中彈ナシ反撃ヲ加ヘタリ	數發ノ砲射撃ヲ受ケタリ命ヲ中彈ナシ直ニ反撃ヲ加ヘタリ
同	同	同	同	同	同
右	右	右	右	右	右

←  
ワ  
ク

在漢口日本帝國總領事館

B11

(25)

十一月十二日午後六時	十一月十一日午前七時	十一月十日午後四時十分	十一月九日午後十一時	十一月九日午後零時十分	三十五分
沙市下流東岳山砲台	沙市下流東岳山	上車灣上流二溼ノ地點	黃陂口附近クエラロツク・ビーコ	張家灣	
帝國軍艦 比良艦	同	帝國軍艦 羽艦	日清汽船 大和丸	同	
同	右	同	同	右	
右	右	右	右	右	モ人命及船体ニ異状ナシ
命ヲ中彈ナシ直ニ反撃セリ	四發ノ砲射撃ヲ受ケタリ命ヲ中彈ナシ直ニ反撃ヲ加ヘ共産匪一名ヲ斃セリ	三發ノ砲射撃ヲ受ケタリ命ヲ中彈ナシ直ニ反撃ヲ加ヘタリ	二發ノ砲射撃ヲ受ケタリ命ヲ中彈ナシ直ニ反撃ヲ加ヘタリ	一發ノ砲射撃ヲ受ケタリ命ヲ中彈ナシ反撃セリ	警戒隊之ニ應射セリ
同	同	同	同	同	
右	右	右	右	右	

在漢口日本帝國總領事館

B11

海軍

秘

24/11

電信寫

昭和5 一六八八三 暗

漢口 本省

十一月廿二日後着

坂根總領事

亞

印

印

印

幣原外務大臣

第五二六號

長沙發本官宛電報

第一六八號

大臣へ轉電アリタシ

第一〇一號

本廿一日第十五師副師長郭壽ノ語ル處ニ依レハ昨廿日湘陰縣城(長沙ヲ去ル下流約百二十支里)ハ共匪ノ爲占領セラレタリトノ事ナルカ本日早朝當地ヲ出帆シタル英國汽船ハ同地通過ノ際共匪ノ爲射撃

セラレ死者一名負傷者三名ヲ出シタル由ニテ又明廿二日英國曳船ハ當地ヲ出帆スル事トナリ居ル關係上當地在泊中ノ英國軍艦「テール」ハ事情觀察ノ爲本日午後急遽同地ニ向ケ下航セリ尙目ト蘆林潭(長沙ヲ去ル約百五十支里)モ共匪ノ爲虜拂ハレ居ルトモ傳ヘラレ鐵道ハ本日ヨリ又復不通トナレリ右不取敢  
上海 北平、南京へ轉電アリタシ

長沙の消息

油

秘

海軍

電信寫

略報 一六八八四 暗

漢口 本省 十一月廿二日後着

幣風外務大臣

坂根總領事

第五二八號

當地日清汽船ハ長沙岳州ノ中間ニ當ル湘陰蘆林潭地方カ二十一日拂  
 曉共產軍ノ爲孫奪放火殺戮ノ慘禍ヲ蒙リタル後古領セラレ偶々同地  
 方通過上航ノ怡和太古三北各社船ハ何レモ猛烈ナル射撃ヲ受ケテ岳  
 州ニ引返シ太古定號ノ如キ數名ノ死傷者サヘ生シタル趣入報ニ接  
 シタルヲ以テ狀況回復スル迄當地長沙間ノ定期航行ヲ休止シ曳船ノ  
 ミ岳州迄遡航ノ上形勢ヲ見定メ長沙行ヲ決セシムルコトナレリ不  
 取敢  
 上海、北平、南京、長沙、九江ニ轉電セリ

長江不法射撃



秘

10月  
21日

電信寫

昭和 一六九〇二

漢口 本省 十一月廿四日後着

幣原外務大臣

坂根總領事

第五三一號

往電第五二八號ニ關シ

英國汽船ヲ保護ノ爲長沙ヨリ岳州ニ往復セル英艦 "Holt" 其ノ他ヨリ  
得タル海軍側ノ情報ニ依レハ當初平江ニ潛居セル共匪孔荷龍ノ  
部隊カ第三十一師ノ爲撃退セラレタル爲其ノ大部分ハ東方長壽ニ  
向ヒ遁レ去リタルモ一部分西ニ向ツテ逃走ノ途中行掛ノ駄賃式ニ  
湘陰、蘆林潭ヲ掠奪スルニ至リシモノナルカ右ハ間モナク四散シ  
目下同方面ニ匪賊ノ影ヲ認メス依テ岳州ニ假泊中ノ各汽船モ長沙

ニ向ケ上江ヲ開始シ長沙航路ハ差當リ危険ナキニ至レル趣ナリ  
右ノ次第二テ日清汽船モ早速同航路ヲ繼續スル筈ナリ  
上海、北平、南京、長沙、九江へ轉電セリ

不  
法  
射  
打

秘

25/11

電信寫

昭和5 一六九一二 暗

漢口 本省 十一月廿四日後着

班

幣原外務大臣

第五三三號

長沙發本官宛電報

第一七〇號

大臣へ轉電アリタシ

第一〇三號

往電第一〇一號ニ關シ

蘆林潭迄下航シタル英艦「テール」廿三日朝歸來シタル處同艦長

ノ談ニ依レハ共匪軍ハ廿二日湘陰ヨリ何レヘカ撤退シ蘆林潭ハ全

然異狀ヲ認メス尙岳州ニ在リタル英艦「ターソン」廿三日湘陰ニ向

ヒタルニ付同地方ノ航行最早差支ナキ見込トノ事ナリ

上海、北平、南京へ轉電アリタシ

25/11

亞細亞局

船監第一一四號 通牒 昭和五年十一月廿五日

外務省 通商局長 殿

遞信省 管船局長



揚子江航行船不法破射撃ニ關スル件  
右ニ關シ日清汽船會社ヨリ別紙寫ノ通り届出有之候ニ付御参考迄及  
送付候

郵

和曆五年十二月廿六日 信省

物



昭和五年十一月二十日

逓信省管船局長

侯爵 廣 幡 忠 隆 殿

日清汽船株式會社

社長 男爵 深尾 隆太郎

揚子江航行船不法被射砲撃ニ係ル件

其後弊社揚子江航行船別紙ノ通り支那匪軍ノタメ不法射砲撃相受候間  
此段御届申上候

信陽丸 十月十七日上航ノ途上車灣ニテ砲撃セラレ本船警戒隊及護送  
艦堅田ヨリ反撃沈黙セシム

武陵丸 十月廿三日上航ノ途觀音洲ニ於テ射砲撃ヲ受ケシヲ以テ乗組  
警戒隊反撃沈黙セシム

大亨丸 十月廿三日上航觀音洲ニテ一發砲撃セラレ防彈用鐵板ニ命中  
セシモ威力少キタメ鐵板ヲ損傷セルニ止マレリ

信陽丸 十月廿七日上航下車灣ニテ射砲撃ヲ受ケ翌廿八日馬家塞ニテ  
射撃セラレシモ孰レモ警戒隊ノ反撃ニヨリ沈黙ス

大亨丸 十月廿九日下航下車灣附近ニテ砲撃セララル

武陵丸 十月廿九日下航下車灣ニテ砲撃ヲ受ケ警戒隊反撃ス

大吉丸 十一月二日下航ノ途黃桑港附近ニテ數發砲撃セラレシモ命中  
セス

十一月二日上航於兒磯附近ニテ砲撃セラレタリ

以上

亞細亞局

第二課

昭和五年十一月六日 接電

機密第一〇三一號

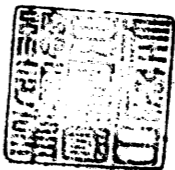
昭和五年十一月二十七日

別紙添付

在漢口

總領事

坂根準三



外務大臣男爵 幣原喜重郎 殿

要領要領  
地圖一系  
中保  
軍務部  
送付

漢口上流沙市岳州間ニ於ケル共產匪ノ  
船舶ニ對スル不法射擊地帶地圖送付ノ件

揚子江上流地方ヲ航行スル本邦艦船ニ對スル共產匪ノ不法射擊實情  
及中華民國地方官憲ニ對スル抗議 經過等ニ關シテハ今夏以來屢次

在漢口日本總領事館 B1

電報及公信ヲ以テ及報告置キタル處今般首題ノ通り斯種不法射擊地  
帶地圖作製セルニ付何等御參考迄四部送付ス  
本信寫送付先

代理公使、北平、上海總領事、

在南京、宜昌、九江、長沙、沙市、重慶各領事

在漢口日本帝國總領事館

B11



要領要旨録

分類 A 6.1.5.4-6)

亞細亞局

第三編

昭和五年十二月拾五日發

機密第一〇四一號

昭和五年十二月一日

別紙添付

在漢口

總領事

坂根

準三



外務大臣男爵 幣原喜重郎殿

本邦艦船ニ對スル不法射撃ニ關シ  
報告ノ件

十一月十七日附機密第一〇〇一號報告ノ本件ニ關シ其ノ後ノ分ヲ別  
紙(二通)ノ通り作表ノ上報告申進ス

在漢口日本總領事館 B1

本信寫送付先、

代理公使、北平、上海、南京、

在漢口日本帝國總領事館

B11

(28)

十一月十九日 午前七時二十分	十一月十八日 午後六時五十分	十一月十六日 夜半	十一月十五日 午後五時卅分	十一月十五日 午後十一時五分
近黄陂口 及一ノエ ラ・ロツク タ・ビコツ ン一附近	新州下流 一エラ 口ツク 附近	近黄陂口 附近	石首附近	近黄陂口 附近
日清汽船 大真丸	日清汽船 南陽丸	日清汽船 鳳陽丸	日清汽船 大孚丸	日清汽船 大真丸
共産艦	共産艦	共産艦	共産艦	共産艦
前後二回二、三 ノ砲撃ヲ受ケタリ 命中弾ナシ	二回ノ砲撃ヲ受ケ タリ 命中弾ナシ	四、五回ノ砲撃ヲ 受ケタリ 命中弾ナシ	砲撃ヲ受ケタリ 命中弾ナシ 警戒隊及警護艦之 ニ照射セリ	六回ノ砲撃ヲ受ケ タリ 命中弾ナシ
同 右	同 右	同 右	同 右	同 右

在漢口日本帝國總領事館

BU

(27)

十一月十四日 午後四時及同 十一時十五分	十一月十四日 午後四時及同 十一時十五分	十一月十四日 午後四時及同 十一時十五分	十一月十四日 午後四時及同 十一時十五分	十一月十四日 午後四時及同 十一時十五分
近上車灣 附近	近上車灣 附近	近上車灣 附近	近上車灣 附近	近上車灣 附近
日清汽船 大孚丸	日清汽船 大孚丸	日清汽船 大孚丸	日清汽船 大孚丸	日清汽船 大孚丸
共産艦	共産艦	共産艦	共産艦	共産艦
前後二回四、五 ノ砲撃ヲ受ケタリ 命中弾ナシ	前後二回四、五 ノ砲撃ヲ受ケタリ 命中弾ナシ	前後二回四、五 ノ砲撃ヲ受ケタリ 命中弾ナシ	前後二回四、五 ノ砲撃ヲ受ケタリ 命中弾ナシ	前後二回四、五 ノ砲撃ヲ受ケタリ 命中弾ナシ
同 右	同 右	同 右	同 右	同 右

在漢口日本帝國總領事館

BU

本館船隻不詳

110  
#1024



(30)

同 右	同 右	十一月二十三日 正午頃	同 右
同 右	同 右	洋碼頭下 流約四週 ノ地點	同 右
日清汽船 長陽丸 共産艦	日清汽船 長陽丸 共産艦	日清汽船 長陽丸 共産艦	日清汽船 長陽丸 共産艦
同	同	二發ノ砲撃ヲ受ケ タリ 命中弾ナシ 警戒隊之ニ應射セ	同
同 右	同 右	同 右	同 右

在漢口日本帝國總領事館

B11

(29)

同 右	同 右	十一月二十日 午前八時二十分 及同九時三十分 五分並午後二時 五十二分	同 右
同 右	同 右	東山及 香立橋下 夕日香 一ト 近並一ト ウセキ キ一	同 右
日清汽船 長陽丸 共産艦	日清汽船 長陽丸 共産艦	日清汽船 長陽丸 共産艦	日清汽船 長陽丸 共産艦
同	同	砲撃ヲ受ケタリ 命中弾ナシ 警戒隊之ヲ反撃セ	同
同 右	同 右	同 右	同 右

在漢口日本帝國總領事館

B11

本邦艦船不法射撃表 (其ノ十三)

被害年月日時	十一月十四日第十番及 午後四時及同第十一番 午後十一時十五分 同十一時十五分 分並同十一時 四十五分	被害地點	第十番及 第十一番 シクログ ツグ 一 並其ノ附	被害艦船名	武陵丸	加害部隊	共産匪	被害程度	前後四回十數發ノ 砲射撃ヲ受ケタリ 人命船体ニ異状ナ シ 警戒隊及警護艦之 ヲ反撃セリ	備考	追テ抗議 申入ノ筈
被害年月日時	十一月十四日 午後四時及同 十一時十五分 並同十一時四 十五分	被害地點	磨盤石及 上車灣附	被害艦船名	大亨丸	加害部隊	共産匪	被害程度	前後三回十數發ノ 砲射撃ヲ受ケタリ 警戒隊及警護艦之 ヲ反撃セリ	備考	同
被害年月日時	十一月十五日 午前十一時四 十分及同午點 後二時二十分	被害地點	洋碼頭下 及石首	被害艦船名	武陵丸	加害部隊	共産匪	被害程度	前後二回四、五發 ノ砲射撃ヲ受ケタリ 警戒隊及警護艦之 ヲ反撃セリ	備考	同

在漢口日本帝國總領事館  
B11

被害年月日時	十一月十五日 午後十一時半	被害地點	黃陂口附	被害艦船名	大貞丸	加害部隊	共産匪	被害程度	六發ノ砲射撃ヲ受ケ タリ 命中彈ナシ	備考	追テ抗議 申入ノ筈
被害年月日時	十一月十五日 午後五時卅分	被害地點	石首附近	被害艦船名	大亨丸	加害部隊	共産匪	被害程度	前後二回計四發ノ 砲射撃ヲ受ケタリ 警戒隊及警護艦之 ニ應射セリ	備考	同
被害年月日時	十一月十六日 夜半	被害地點	黃陂口附	被害艦船名	鳳陽丸	加害部隊	共産匪	被害程度	四、五發ノ射撃ヲ 受ケタリ 命中彈ナシ	備考	同
被害年月日時	十一月十八日 午後六時五十 分	被害地點	新州下流	被害艦船名	南陽丸	加害部隊	共産匪	被害程度	二發ノ砲射撃ヲ受ケ タリ 命中彈ナシ	備考	同
被害年月日時	十一月十九日 午前七時二十 五分	被害地點	黃陂口附	被害艦船名	大貞丸	加害部隊	共産匪	被害程度	前後二回二、三發 ノ砲射撃ヲ受ケタリ 命中彈ナシ	備考	同

在漢口日本帝國總領事館  
B11

在漢口日本帝國總領事館

B11

同 右	同 右	十一月二十三日 日正午頃	同 右
同 右	同 右	洋碼頭下 流約四哩 ノ地點	同 右
日清 宜陽船 丸	日清 涪陵船 丸	日清 長陽船 丸	日清 宜陽船 丸
共產匪	共產匪	共產匪	共產匪
同 右	同 右	二發ノ砲撃ヲ受ケ タリ 命中心ナシ 警戒隊之ニ應射セ リ	同 右
同 右	同 右	同 右	同 右

在漢口日本帝國總領事館

B11

同 右	十一月廿三日 午前十時五十分	十一月二十日 午前八時二十分 及同九時十分 並十二分 后一時二十分 十一分	十一月二十日 午前八時二十分 及同九時十分 並十二分 后一時二十分 十一分
同 右	石首、東 岳山	東岳山及 第二十六 番立標下 流ノクリ 近並ノ附 キウセキ エ	石首下 頭下二洋 碼頭並 ノ地點 監利附近
日清 涪陵船 丸	日清 長陽船 丸	帝國軍艦 小鷹	日清 武陵船 丸
共產匪	共產匪	共產匪	共產匪
同 右	四發ノ砲撃ヲ受ケ タリ 命中心ナシ 警戒隊之ヲ反撃セ リ	前後三回數發ノ砲 撃ヲ受ケタリ 命中心ナシ 直ニ反撃ヲ加ヘ 軍ニ相當ノ損害ヲ 與ヘタリ	前後三回數十發ノ 砲撃ヲ受ケタリ 命中心ナシ 警戒隊及警護艦之 ニ應射セリ
同 右	同 右	同 右	追テ抗 入ノ答 申

亞細亞

機密第一〇八一號

昭和五年十二月九日

在漢口

總領事 坂根 準

三

外務大臣男爵 幣原 喜重 郎 殿

本邦艦船ニ對スル不法射撃ニ關シ

新聞切拔送付ノ件

十一月十七日附機密第一〇〇〇號報告ノ本件ニ關シ其ノ後當地邦字新聞ニ掲載セラレタル最近ノ不法射撃ニシテ特ニ注意ヲ要スル程度

別紙添付

昭和五年十二月廿九日

在漢口日本總領事館

BI

ノモノ別添新聞切抜ノ通りニ付委細右ニテ御了知相成度此段報告ス  
本信寫送付先、

代理公使、北平、上海、南京、

在漢口日本帝國總領事館

